

R5 民生福祉常任委員会行政視察

山端 博

・令和5年7月6日

・熊本県荒尾市

※面積57.37km² 人口49,528 議員定数18

(1)荒尾市民病院経営健全化の取組みについて

荒尾市を含む、有明保険医療圏域人口は2市4町で149,252人となっており、当市を含む、上十三地域保健医療圏人口は2市6町で、175,662人となっております。

・荒尾市民病院経営形態の見直しについて

平成16年からの新臨床研修医制度により、急激な医師不足となり収益が減り、経営危機を迎えた。

平成18年度に3回 荒尾市病院事業経営改革委員会を開催

病床数の削減、療養病床の廃止、職員数の削減、給与カット、給食部門の委託等の実施内容を洗い出したが、実施には移せていない。

↓

平成18年11月 総務省によるアドバイザーの活用

市や、議会も積極的に関与、検討内容の実行の後押し等を行い、病院職員が待ちから攻めの姿勢に取組む。

↓

平成19年4月 荒尾市民病院改革計画の運用開始 ※早急に策定

急性期医療へ特化、地域医療支援病院取得、がんセンター運用、医師会との連携、経営統括責任者の設置、事務職員の専門家化を策定する。

↓

平成21年 公営企業法の全部適用施行 中期経営計画策定

5か年の中期計画内で、救急科の新設、透析ベッドの増床、HUC加算の取得等、24事業の取組みを行う。

この中期計画を基に、「荒尾市民病院あり方検討会」が設置され、特に病院経営の効率化や、中期計画の点検と評価に重点を置き、

- ・看護師や医師確保への取組み強化
- ・循環器系疾患の対応強化
- ・ジェネリック薬品の活用率向上や共同仕入れ態勢の構築
- ・民間ノウハウを活かし、収益増やコストへの意識改革

に取り組み、また単年度事業計画においては、具体的な目標設定、管理職が経営をしっかりと把握し、分かりやすく全職員向けに資料を作成し、全員が理解をしたうえで、意識の統一を目的としております。

・医師確保対策について

- ①管理者による定期的な教授への訪問活動
- ②寄付、広告協賛
- ③65歳定年 不足診療科のみ70歳
- ④最先端医療機器の導入

- ⑤ 県地域医療連携拠点病院となりネットワーク推進医の派遣
- ⑥ 各種研修施設認定を取得し、若手医師の確保
- ⑦ 奨学金貸付制度の活用により地元根付く医師の確保
- ⑧ 診療実績に応じた給与支給 診療収入の約4%を手当として支給

これらの対策により、平成19年には28名の医師が令和5年には55名と増員、看護師においては、平成19年200名が令和5年には234名と増えており、医師の増員により労働環境の最適化が図られ、収入増加による経営状況の改善に繋がっています。

(2)まとめ

2次医療圏域内の人口規模はほぼ同程度であり、地域の中核病院、急性期病院という点でも、似たような病院でありました。当市と比較しても、行っている改革は似たようなところも多くあります。今回お話を伺った中では、医師を含む病院職員、市、議会、民間と広く巻き込んで熱意を持って改革に取り組んできたというお話を伺いました。その上での、医師確保対策であったり、事業管理者と一般職員との意識統一であると考えます。当市では単年度ベースでは黒字化を計上しておりますが、コロナ関連での補助金収入であることから、全く油断を許さない状況であります。このことから、今回調査視察した荒尾市民病院の例を参考にしながら、委員会、運営審議会等で提言していきたいと思っております。

R5 民生福祉常任委員会行政視察

山端 博

・令和5年7月6日

・福岡県福岡市

※面積343、47km² 人口1,638,738 議員定数62

(1)人生100年時代を見据えたプロジェクト「福岡100」について

- ・2016年8月保健福祉総合計画で政策転換「支えられる側」から「支える側」へ
- ・健康先進都市戦略(生活の質の向上)
- ・市民や企業、大学など幅広いプレイヤーの参画と発想、手法を取り入れる
- ・2017年3月「福岡市健康先進都市戦略策定」
- ・2017年7月「福岡100」産学官民オール福岡による推進を宣言
- ・活発なコミュニティ活動として全144小学校区に公民館と社会福祉協議会の設置
- ・買い物支援バスの運行など、強みを活かしたまちづくり
- ・認知症高齢者の増加に対する対応《やさしさを伝えるコミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」》を導入し、児童や生徒向けに実施するなど、未来を見据えた教育
- ・高齢化率が現在21%と低い現在から対策が必要
- ・福岡市の強みをいかした持続可能な超高齢化社会を目指す
- ・都市の若さと成長力(経済成長力と、人口増加・企業集積)
- ・活発なコミュニティ活動(買い物支援バス・地域カフェ等)
- ・福岡100(人生100年時代の到来を見据えた「ひと」と「まち」どちらも幸せになれる社会をつくるプロジェクト)
- ・健康・医療・介護だけでなく住まいや地域づくり、働き方なども含め、広い意味でのまちづくりに産学官民“オール福岡”で取り組む(他部局や様々な力を結集)

(2)ま と め

福岡市と本市とでは自治体の規模や予算で大きく違いはありますが、高齢社会への対応は本市を含め日本全国すべての自治体が直面する問題であります。福岡100事業は先進的な大きな枠の取組みとして注目すべきものと考えます。現在の本市の医療や介護の状況を考えても、ICTの活用や外国人材についても取り組みを検討すべきであり、今後高齢化がますます進むことを考えるうえで今回の視察は実践の手本として大変参考になるものでした。数十年後を見据えた取組は本市においても考えていかなければなりません。

令和5年度民生福祉常任委員会視察報告書

荒尾市市民病院の経営健全化の取り組みについて

中尾 利香

1. 視察日程 令和5年7月6日

2. 視察先 熊本県荒尾市

3. 活動委員

山端 博、山端 美樹子、竹島 直樹、今泉 信明、中嶋 秀一
櫻田 百合子、中尾 利香

4. 視察内容

危機からの脱却!!

荒尾市は人口約5万人、近郊には大牟田市約108千人があり、15万人の医療圏になります。現在市民病院は、病床274床、診療科目27科、総職員561名、医師55名（基幹型研修医含む）で運営されています。

平成17年に医師不足になり、経営健全化を開始し、平成21年に地方公営企業法の全部適用が施行されています。

経営見直しの経緯については、平成21年救急科を新設、電子カルテシステムの導入、平成22年には院内保育所の開設、医学生、看護学生奨学金制度新設、平成23年には透析ベッドの増床（21→24床）、HCU加算の取得、化学療法室の拡充、手術室の充実、放射線治療センター開所（放射線治療装置グレードアップ）し、「荒尾市民病院あり方検討会」を設置しました。



「荒尾市民病院あり方検討会」の設置目的は、地域の中核病院としての役割、経営形態のあり方、病院経営の効率化、地域住民及び医療機関との連携、中期計画の点検・報告を行うことにあります。

経営健全化の概要については、①具体的な目標値の設定を決めて管理者から職員に向けて周知する、②各年度の事業計画に対する評価を実施する、③管理職中

